修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
1丁目3番地（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

今秋から関東の旅館

宿泊料を値上げ

中学生は七百円に

一部旅館に批判の声

諸物価と人件費高騰を理由に東京をはじめ江の島、鎌倉、箱根、日光などの団体旅館が九月から宿泊費を中学生七百円、高校生八百円に値上げする。これに米代八十円と奉仕料五％を加えると中学生八百十五円、高校生九百二十円で父兄にとっては相当の負担となる。これに対して一部の旅館は批判的な態度を示すものもあり、足なみもなかなか揃わぬのが実情のようだ。

旅館側ではことしの四月から新料金を希望していたが、値上げ予告を学校や業者への申し出がおくれたため春の修旅は旧料金の中学生六百円、高校生七百円でサービス、秋からの実施分は既に各学校側の諒解を得たという。

新料金は一律に百円増しとなっており、個々の旅館から幹旋業者を通じて通知ずみ。この値上げについて全関東団体旅館協議会本郷支部では「組合として料金を一定することは独禁法に触れるため個々にまかせた」（同支部事務局渡辺主事の話）といっており、また、元締の全関東団体旅館協議会としても「料金引き下げの勧告をする規制力はない」（同協議会石塚事務局長の話）というのが実情だ。

旅館側は「会員旅館のアンケートによると物価は一割五分もあがり、生徒の体位も向上しているため、一人一畳にしたいというのが大きな理由で、最低の基準を出してみた」（同協議会本郷支部幹事小池恒夫氏の話）という。

しかし一方では「不況ムードで一般の団体客が減り、さらに公共施設の転用や会館の利用がさかんで修学旅行団も少なくなっている現在、値上げは慎重でありたい。わずかな値上げで父兄から非難を受けたくないし、修旅が〝手堅い顧客〟であることを忘れてはならぬ。経営が苦しいのなら協同組合としての本領を生かし、食品などの共同購入をさらに強めていく方法もあろう」（文京区の某旅館の話）また、「保健衛生の立場から不十分だというのなら全旅館が加盟している東京都旅館環境衛生同業組合が中心となり料金を定め申請すればよい」（台東区の某旅館の話）という批判的な声もある。

その反面に「いくら料金を改訂したところで実際には実施困難だろう。幹旋業者に弱いわれわれが、強引に新料金で押しつけることは不可能に近い。結局、従来のままか、あるいはさらにそれを下回わる旅館も出てくるのではないか」（文京区の某旅館の話）と内情を語る業者もあり、料金改訂をめぐって今後の動きは相当に活発化されよう。

成人教育と〝旅〟

『壁うち破る親の見識』

西村文夫

「正月を香港で」というキャッチ・フレーズに誘われた訳でもないが、一昨年の正月、私は香港を訪ねた。そこは、確かに観光客を満足させる要素を豊富に備えていた。それら、東洋の真珠といわれる夜景や、料理、買物等に、私は十分の満足を覚えたのだが、もう一つ、非常に強く印象づけられ、考えさせられたことがあった。

「中共からの難民、百万を越す」という記事が新聞誌上をにぎわしたのは、あれは何年前だったか。三年続きの大天災の頃であったのは確かだが、その難民のその後については、別に特に考えたこともなく、忘れるともなく忘れてしまっていた。香港を訪ねてビックリしたのはその難民の大半六十万をすでに収容する高層ビルが、見渡す限り立ち並んでいたことである。あと何年かで残りを全部収容する計画で、今も建設が進められていること、ビルの屋上にはすべて小学校が付設してあること、初期のものにはなかったが最近のビルにはすべてエレベーターもあることなどの説明を聞きながら、私は痛いほど日本の政治、東京の住宅計画の現状を振り返らざるをえなかった。そしてこの政治をしているのが英国人であること、あと三十数年たって二十世紀の終りには、条約で中国へ返すことになっているのだが、その時実際にどうなるかはだれも予測がつかないことなどが、単なる知識としてではなく、人間の考え方や行動にある影響力をもつほんとうの知識として、私の脳細胞に定着したのを覚えた。

成人教育は人と人とのふれあいである、といわれる。しかし、同じ生活環境に置かれた人と人とが、いくらふれあい、話し合っても、その視野を拡げ伸ばすのには限界がある。異なる自然風土に身を移し、そこに生きる人々とふれあい、その背後の歴史にじかに接したとき、新たな視野の展開と生長が期待できるのではあるまいか。その意味で「旅」はまた一つの有力な成人教育の機会を提供するものといえよう。ましてその「旅」が、同じ年頃の子を持つ母親たちの、他の学区域の母親たちも一緒になっての旅である場合は、人と人とのふれあいと、自然や歴史とのふれあいが、同時に行なわれるのだから、成人教育としての成果は期して待つべきものがあるだろう。

戦後、日本社会の民主化という悲願のなかで生まれたPTAは、家庭という視野のなかでのみ生きてきた母親を、地域の学校へひっぱり出した。そこで、母親のわが子に対する愛情、エゴイズムは、学級、学校の視野にまで拡げられた。しかしそこでの視野の伸展は量的にも質的にも限界があった。入試競争に狂奔する教育ママの存在と、学校格差を作り出す学校エゴイズムの氾濫は、その限界を如実に物語っている。

その限界をつき破って、さらに一段と視野を拡げ伸ばす一つの手法として、私は「旅」を推奨したいのである。一時間や二時間の表面的形式的ふれあいではなく、数日間行動を共にし、同じものを食べ、同じものを見てふれあうならば、訪れるところがどこであれ、必ずや多くのものがその人にプラスされるだろう。訪れる場所と日程が十分に検討されたものであればなおさらである。

「旅」には金もかかり、時間もかかる。それでも旅に出るかどうかは、その人の「旅」についての価値判断による。二十世紀に生きる子供たちを育てる親には、それなりの視野と見識が要求されているのである。その見地から「旅」の持つ意義を、もう一度考え直してみることをお奨めしたい。（東京都小学校PTA協議会副会長）

八万六千名を運ぶ

近畿高校修旅船運営協

今秋の輸送計画

【大阪発】近畿地区高校修旅専用船（わかば丸、ふたば丸）運営協議会では七月二十六日大阪市東区の関電会館で協議会を開き、本年度春季輸送実務報告と秋季輸送計画を決定したほか去る四月五日の修旅研究大会で議決された事項を近く関係当局へ陳情、要望することを決めた。

本年の春季輸送は三九三校一一七、二七三人で昨年より二一、三九七人の減だったが、本年秋季の申し込みは二九九校八六、一六〇人で昨年同季より七校五七一人の増加となっている。

なお本年度の同協議会役員はつぎの通り。（敬称略）

▽会長＝堀江駒太郎（大阪府立清水谷高校長）▽常任幹事＝山下尚志（神戸市立兵庫商業高校長）岡本仁（尼崎市立産業高校長）田中実雄（京都府立洛東高校長）▽委員＝鈴木広次（兵庫県立尼崎高校長）阪部達雄（奈良県立大淀高校長）小野正己（三重県立津高校長）市橋平馬（滋賀県立彦根西高校長）中田真（和歌山県立和歌山工業高校長）林清一（京都市立紫野高校長）▽事務局長＝立花欣一（関汽業務課長）▽同次長＝小西惣三郎（全修協大阪事務所長）。

ガンバレ事務局！

★…全修協主催の夏の研修旅行は各コースとも無事にすみ、さすがは十年のキャリアだと好評だったが、沖縄コースだけは一部の参加者になかなかビザがおりず、出発日近くになってポツンポツンおりるという有様。

そのため本部事務局は大あわて。

★…なかでも担当の福井業務部長＝写真＝は、参加者の期待にそいたいと連日、朝から晩まで総理府につめっきり、現地からの情報待ちに明けくれたが、れいの白髪はさらに白くなり、体重も二キロ減ったという。この奮闘ぶりを知った全修協各支部や募集機関はすっかり感激、問い合わせ電話のあと〝がんばれ事務局！〟の声がしきりだった。勇気百倍した福井部長〝徹夜でも平気だぞ〟どうやら往年の海軍大佐（？）の面目躍如。

奉仕料を一〇％に

九月から福岡市の旅館で

【福岡発】福岡市学生団体旅館協議会（長沢元治会長、三〇旅館加盟）では九月から修学旅行団体の奉仕料五％を一〇％に引き上げることに決めた。現在各地の旅館団体奉仕料は五％なので福岡市が値上げのトップを切ったことになる。

修旅基準引上げ

大分

【大分発】大分県教委では国鉄料金の改訂や宿泊費の高騰にともない修旅基準額をつぎのように改正することになり関係機関や各学校長に通達を出した。

▽小学校（一泊二日）は千八百円を二千円に（交通事情により二泊を認める）▽中学校（三泊四日）四千八百円を六千円に（関西方面は四泊五日を認める）▽高校（六泊七日）八千五百円を一万二千円に。

ぜひ必要な不寝番

豊島区内中学校の旅修調査

おやつは一括購入

東京都中学校学校行事等研究会（会長＝台東区立上野中学校長・幸田勝氏）では豊島区内の中学十三校について修旅の実態調査を行なったが、立案計画、見学場所、実地踏査につづいての具体的調査はつぎの通り。なお研究発表は豊島区立駒込中学校の藤田豊教諭である。

生徒一人当りの費用総額調べでは四千六百円（一校）四千七百円（一校）四千八百円（一校）四千九百円（一校）五千円（二校）五千二百円（一校）五千二百六十円（一校）五千四百円（二校）五千六百円（二校）六千円（一校）でいずれも積み立て。四千六百円から六千円まで学校によって違うのは、休憩料、おやつ代、昼食代、写真代、しおり代など取るところ取らぬところ、あるいはその額が異なっているためで、また、遠近の差もあるからだ。しかし最高と最低の差が千四百円というのは問題があるとしている。

事前指導の調査は十項目にわたって行なわれたが、「何か月位前から始めるか」では、約一か月前（七校）約二か月前（三校）約三か月前（二校）約一年前（一校）となっているが、「一か月前」でも社会科などでは相当以前から修旅を意識した学習が行なわれているとみられる。

必携品のうち「洗濯ばさみ」が一校あったが、これは靴の名札はさみにも使用でき、よいアイディアといえる。おやつは個人で購入させる（十二校）学校で一括購入する（一校）。個人購入のばあいは一日分について百円位（五校）百五十円位（三校）百二十円位（一校）五百円位（一校）五十円位（一校）自由（一校）などいろいろある。このうち五百円位とあるのは、全日程分の間違いであろう。学校一括購入は一日六十円。個人で購入するより学校でまとめて配給したほうが健康管理上、望ましいと指摘している。

また、「こづかい」については千円（六校）千五百円（五校）二千円以上（二校）で、千円から千五百円が妥当だとしている。

現地での「外出」の扱いは、引率して外出する（八校）時間をきめてグループで許す（四校）いっさい外出させぬ（一校）となっているが、できるなら引率外出ぐらいはさせたいものである。

出発当日の集合場所は最寄駅前（十一校）学校（二校）で、学校から品川駅までバスを利用するのが一校あったが、これはよい方法である。

生徒就寝中、教師が当番で不寝番をするかにたいしては立つ（六校）立たぬ（五校）適時に見回る（二校）。分散宿泊するばあいはいらないが、やはり不寝番は立てたほうがよいと指摘している。

宿舎での非常口や避難場所は十三校全部が生徒一人一人に確認させており、また、避難訓練は実施していない（十二校）実施している（一校）で、これは簡単でよいから、ひまをみて一度はやったほうがよいと発表者の藤田豊教諭は指導している。

修学旅行は　名神ハイウェイを

最高のサービス……時速100キロ・冷暖房完備
リクライニングシート・座席確保
最低の運賃……名古屋─京都 2時間26分
─新大阪 2時間50分
─神戸 3時間31分

比良比叡の霊峰、犬山彦根の古城、さては奈良京都の古き良さを今に残す古寺やみ仏の数々等、白鳳天平からの古美術の静かなたたずまいを訪ねて、日本のふるさとを知る若人の想い出の旅のスケジュールに是非快適な名神ハイウエイバスツアーをお加え下さい。

お問合せ・お申込予約は当社へ
大阪市天王寺区上本町6−1−1
日本高速バス　TEL 大阪 771−6637〜8　名古屋 521−8371〜2

奈良　大和の国なか
京都　京都の庭園
富士・箱根
日光
大和の塔

修学旅行映画シリーズを学習効果向上の事前指導にご利用ください。
お申込みは、ツーリストの修学旅行センターかお近くの営業所ご希望があれば、映写機の貸出し、技師出向もいたします。

全国170のサービスネット
近畿日本ツーリスト

九州研修旅行余話

56年ぶり、恩師と再会

永井　熙

九州研修旅行第三日目。今日も好天に恵まれて快晴、三十五度の連続の暑さである。長崎見学、十六番館で昼食を済ませ、バスに乗み組み出発する寸前だった。ここで一時離団し雲仙の旅館で一緒になるという申し出があった。千葉県から参加の七十七歳の早野先生という方で、長崎郊外に住む八十五歳の恩師を訪問するためとのことである。近くにいあわせた参加者一同も「この老翁が恩師を」とびっくりした。

早野先生が数年前、千葉県で存命中の同窓生十四名と共に何十年振りの同窓会を開いた折、長崎におられる恩師村田直卿先生にご連絡したところ、先生は毛筆で半紙十四枚に昔の思い出を書きつらね会費まで同封された。一同は弟子思いの先生に感激し、謝礼に何を送ろうかと相談したが適当なものが見当らない。この時早野先生は「わしに任かせてくれ」ということで、恩師への謝礼は早野先生一任と決った。

早野先生は生物学の元教師である。千葉県松尾町の自宅で珍らしい植物の研究と栽培に余生を送っている。かつて千葉園芸大が、ドイツから取り寄せたアマリリスに交配した新品種の珍品と、これまた珍らしいシャボテンを恩師宅に送り、栽培方法なども細かく書いて送ったという。

その後この老師弟間に、この珍らしい植物の開花をめぐり手紙の往復があった。早野先生は、五十数年振りの恩師の姿と共に、自分の送った世界的品種の植物の開花に、何としても長崎に行きたいという気持にかられていたが、その機会がなかった。たまたま教職員だけのこの研修旅行をきき、これならば安心して参加出来るという家族の同意もあって、今回参加されたというのである。

恩師村田先生は長崎郊外長与村の村長をもつとめた方で、土地の名士である。尋ねる家は直ぐわかった。早野先生が玄関に飛びこみ案内を乞うと、奥様がすぐ恩師村田先生に告げる。奥の間に居合わせた白髪の老師は、駈け出すように玄関へ。五十六年振りの再会にこの老師弟は手を取り合って喜んだ。

座敷に上って同級生の消息やら先生のその後の動静などについて懐しい想い出話に花が咲いたことは、想像以上のものがあったろう。「今年はあなたがいう通りの手入れをしたら初めて三つ花が咲いたよ」と恩師はカラーの写真に収めた大輪の花を見せて呉れた。早野先生の喜びは一方ではなかった。早速鋏を借用し、専門的な剪定を始めた。恩師は家族一同とこの姿を写真に撮影した。尽きぬ思いは山程あるが、時間は刻々と迫り、お別れの時が来た。

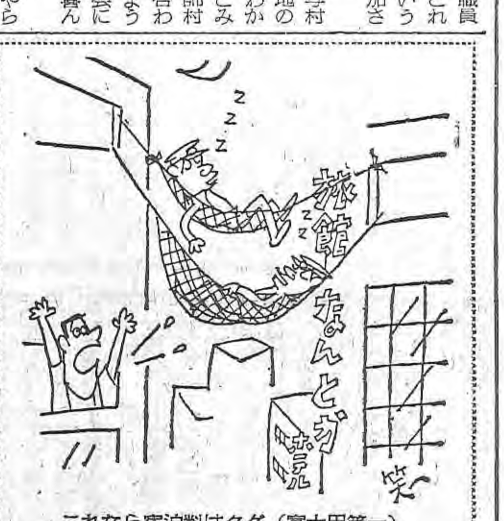
「今度は、長崎で国体があるからその時は是非お出で下さい」。「先生、私は先生の米寿の祝いには必ず参ります」早野先生は確約した。

五十六年振りの老師弟の再会は終った。七十七歳の早野先生、童顔かくしゃく。恩師へ送った珍品の花は来年も開くであろう。しかしそれにも増して師を思う早野先生の心の花は一層美しく咲き続けることであろう。（財団法人・全国修学旅行研究協会常務理事）

○……ゴミの旅……○

列車内での飲み食いは旅の楽しみの一つだが、さて、そのゴミはどのくらい出るだろうか。国鉄の調べによるとゴミの多いのは一月と八月、東京・品川客車区では一か月に一〇〇立方㍍のゴミが掃き出されるという。つまり四㌧積みのトラック十六台分だ。

横綱格は長距離の急行列車で、一両当たり一三－一八㌔㌘のゴミが出る。九州発の急行「雲仙・西海」は東京に着くたびに弁当がら八四一個、どんぶり類五六個、茶びん三二一個、ビールびん六本、サイダーびん二四本、ジュースびん四二本、ウイスキーびん二三本酒びん七本、牛乳びん一九本、ビール缶三三個など総重量三四九㌔㌘を積んでくる勘定。もちろん途中で何回も清掃した結果がこれだというから始発駅からではもっと多いわけだ。



これなら宿泊料はタダ（富士田笑一）

30台女性が最少

国鉄の旅客調べ

定期券利用を除く国鉄の一般旅客は年間約二十億人に達しているが、最近の国鉄通信によると男性が七〇%、女性三〇%。これを年齢別にみると一〇代は男女相半ばだが、二〇代では女性が多いしかし三〇代になると女性は激減して一八%、各年代を通じ最少。その反面、四〇－五〇代女性が増加しているのはやはり〃生活環境〃に左右されている証拠であろう。

利用客を職業別などでみるとサラリーマンが五六%で最高、主婦はわずかに一%弱、自営の商工業者、学生、農林漁業者などがこれに続いている。

また、目的別では、用務四五%家事私用二六%、観光二三%、その他六%。用務は三〇歳－五〇歳が圧倒的で、観光は一〇－二〇歳と五〇歳以上に多い。

同行人数調べでは単独が四八%二人組二一%で、団体扱いとなる二十五人以上は四%にすぎない。観光客の半数は二－五人ていどの少グループが多く、一人旅は一%にも満たない。とくに観光路線といわれる紀勢線や磐越西線などは少グループが多く七〇%前後を占めている。

なお、いままでサラリーマンが利用していた一等寝台、一等座席は減り、二等寝台、二等座席に切り換えているのは不況のせいだろうと国鉄ではいっている。

〃雪国が知りたい〃

福岡から秋田の小学生へ

財団法人全修協主催の第十回教職員研修旅行はさる七月二十二日から外地をふくむ十一コースで約六千名が参加して行なわれ、各団ともいろいろな話題を土産に終了したが、これもその一つ。

東北研修旅行団第二団（滋賀、和歌山、福岡、長崎、鹿児島、熊本、宮崎、大分の各県、京都府、大阪市が参加）が仙台、浅虫を経て十和田湖から秋田県の大滝温泉についた。宿舎で十和田町教育長奈良靖規氏の講演があり、そのあと参加者の一人が控室に同教育長を訪ね「これをぜひ町の小学生に渡して下さい」と一通の手紙を差し出した。この先生は福岡県宗像郡福間町上西郷小の永島虎貫先生で手紙の主は同県津屋崎町の勝浦小学校四年生一同。その手紙には「ぼくたちは雪国のくらしがどんなものか知りません。きみたちは冬のあいだどんなふうにくらしているのですか。新学期になったら返事をください。これからはなかのよいお友だちになりましょう」と書かれてあった。手紙を依頼された永島教諭は秋田へついたらどこかの学校へ届けねばと心がけていたが生憎くの夏休み。たまたま奈良教育長の講演があるのを幸いに同教育長に依頼したもの。奈良教育長はさっそく新学期になったら同町の小学校へ届けると約束「南と北の子どもの楽しい文通がはじまるだろう」と大よろこび。研修旅行が取り持つ縁だった。

沖縄・台北・ソウル かけある記 ③

ひしめき合う人の街

岸本昌弘

〃〃苦労を重ねた人々〃〃

台北の場合と同様、筆者はソウルにも友人が多い。それ以上に、筆者にとってはソウル（というよりも京城）は懐しい土地である。というのは、筆者は小学校の三年生から五年生までを京城で過ごした経験があるからだ。当時、父が勤務の関係で京城に駐在していたためだが、たまたま紀元二千六百年の前後に当たる、いわば軍国日本の全盛時でもあった。父が京城勤務を終えて内地に赴任する際には同行を希望する朝鮮の青年があり、終戦時まで同青年が内地で働らいていたといったいきさつもある。その後、日韓の国交は途絶え朝鮮では動乱が起るなどで消息不明だったところ、最近になってやっと連絡がついた。

そのなつかしい友人たちが打ち揃って空港に迎えてくれた。終戦直後に親日家であることを理由にきびしい仕打ちを受けた人、北鮮のゲリラとまちがえられて釜山の営倉に三年間もぶち込まれていた人、南北戦争での苦労を重ねた人など、過去二十数年の身の上話には迫力があった。当時の仲間のなかにはいろんな罪をきせられて処刑場の露と消えた人も数人いる。

華やかな台北から一転して正反対の暗い街に足を踏み入れた感じだった。空港前の広場に待機しているタクシーは、やはりブルーバードだった。日本から輸入したものだが、いずれもモデル・チェンジする前の古い型の車ばかり、エンジンの音は悪くなっているし、振動は激しい。ボディーもがたがたといった状態である。このほかジープを改良したような箱型のタクシーもいた。

〃〃昔のままの建物〃〃

そのおんぼろ車にゆられて約三十分。ソウルの中心部に着いたが沿道の街並みはいかにも貧しい感じである。昔ながらの市電が走っているが、古ぼけて乗り心地は悪そうである。市庁舎の前にあるソウル最新の近代式ホテルと称するホテルの前で車を降りたとたん、幼い乞食が泣くような、唄うような声を出してどっと寄ってきた。貧しい韓国の象徴を到着早々にして目（ま）のあたりにみた感じである。そのホテルの規模、設備とも日本でいえば二流の下くらいのものだ。市の中心部には朝鮮ホテルとか半島ホテルとかいう高級ホテルもあるが、それは三十年以上も前に日本人が建てた旧式ホテルに過ぎない。

二十数年前に自分自身が住んでいた街がこれかと思うと淋しかった。友人たちが元気で、しかも筆者を暖かく迎えてくれたことは最大の喜びだったが、友人たちの生活の実態を聞き、韓国の庶民生活の貧しさを知るにつれていたたまれぬ感じに襲われた。大学を出なければまともな就職ができないこと。大学卒の初任給が日本円で一万円に満たないこと。一家五人が狭い部屋一つを借りて暮らすということが決して珍らしくはないこと。いわゆる一般庶民は二㌔六十元（ウオン）－日本円に換算すると九十円弱のタクシーに気軽に乗るわけにはいかないこと。…ぼう大な軍事予算をまかなうため税金も高いという。京都ぐらいの規模の街に三百万人の人口がひしめき合いながら細々と生計を営んでいるのがソウルであるということができそうである。

〃〃夜半は外出禁止〃〃

あれやこれやの思いにふけりながらソウルでの第一夜を送ったわけだが、ホテルまで同行してくれた友人たちは十一時ごろになるとそわそわし始めた。「どうしたのか」と聞くと、十二時以後は外出が禁止されているという。友人たちが帰ったあと、窓から街を見下していると、クモの子を散らすように人影が消えていく。十二時以後は時たまパトカーが通るだけで、それこそ水を打ったような静けさである。このへんにも韓国のきびしい現実がうかがわれた。もっとも、この外出禁止は北鮮からのスパイ侵入を防ぐための措置で、いまは特に必要はないのだが、家庭の婦人連の要望で存続されているとかいう。

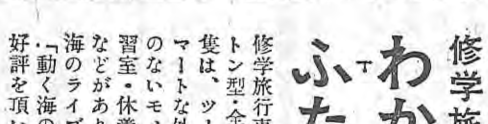
（つづく）＝日本経済新聞記者＝

祭りの歳時記

〃采女祭り〃

○…猿沢池畔で後ろむきになっているのが采女（うねめ）神社。伝説によると都が平城にあったころ、帝に寵愛されていた采女が帝の寵愛の衰えたのを嘆き、身をこの池に投げた。帝は采女の霊を慰めるため采女神社を建立したが、采女は「じぶんの身投げした池を見るのは忍びない」といったので一夜のうちに後ろ向きになったという。

○…毎年、月見の夜、この采女の霊を慰める采女祭りの行事が行なわれる。むかし、藤原家の頭領近衛家が毎年七夕の日に作った美しい花扇を御所に献上し、これを渡御にかけて天皇にご覧にかけたうえ、七夕の星に供えるため庭園の池に浮べたという古式なこの行事を模し、二㍍余の大きな花扇を神社に捧げる祭りである。近鉄奈良駅から南へ〇・五㌔。

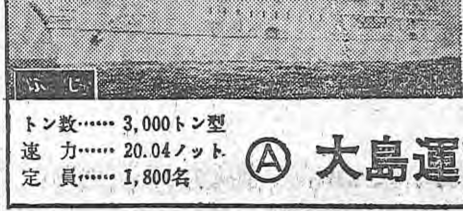


瀬戸内海を走る
海の社会科教室
修学旅行専用船
わかば丸
ふたば丸

修学旅行専用船（1000トン型・全船冷暖房完備）2隻は、ツートンカラーのスマートな外観で、等級区別のないモノクラス船室、学習室・休養室・清潔な食堂などがあり、又学習室には海のライブラリーが完備、「動く海の教室」としてご好評を頂いております。

●修学旅行専用船のお問合せは……
関西汽船
大阪（441）代表9161

修学旅行は
日本最大の豪華観光船「ふじ」で



団体専用船「ふじ」が昭和40年8月に就航しました。科学の粋を集めた画期的な最新鋭船です。生徒達の心にいつまでも残るユニークな修学旅行をお約束します。
みなさまのスケジュールにあわせて全国各地のどの港へもご案内できます。

完全冷暖房、明るい船室、豪華なサロン、ローンジ、広いプロムナードデッキ、娯楽室、浴室

トン数……3,000トン型
速　力……20.04ノット
定　員……1,800名

Ⓐ 大島運輸株式会社
お問い合わせは
東京事務所
東京都中央区晴海町5の7
TEL (531) 9211(代表)